

新造船「涼かぜ」「うみてらし」に会う

2021-2-24 池田良穂

国内で比較的小型のカーフェリーの新造が相次いでおり、欧州のフェリーファンからは新造船の写真を望むメールが送られてきていました。直近では、2月1日に九四国道フェリーの「涼かぜ」(すずかぜ)が、三崎と佐賀関を結ぶ豊後水道横断航路に就航し、2月16日には九州商船の博多～対馬航路の新造船「うみてらし」が進水して艤装中とのこと。両船共に臼杵造船所の建造です。

そのようなわけで2月20日から、両船の撮影を主目的とする撮影旅行をしました。フェリーで九州まで行ってとも思ったのですが、日程が合わず、やむなく陸路ででかけることとして、三崎から佐賀関まで「涼かぜ」に乗船し、臼杵港で艤装中の「うみてらし」を撮影し、宇和島運輸の午前中の便「おおいた」で豊後水道を渡って八幡浜港に上陸。さらに宇和島では盛運汽船の船を2隻乗り継いで宇和海を半日かけて巡り、最後には宿毛市営船「すくも」の撮影という段取りで旅行をしました。

晴天に恵まれ、2月とは思えない暖かい日が続き、素晴らしいシップウォッチングが楽しめました。



三崎港から乗船した新造船「涼かぜ」は、トラックと乗用車で満杯の状況でした。



70分の航海で、2層の客室デッキがあり、椅子席と絨毯敷きのスペースがありました。



「涼かぜ」の船内です。窓側に海が眺められるカウンタ席が用意されているのはとても嬉しいことです。



2階の最前部には展望席があり、使用料は500円でした。鍵をもらって使用ができました。まさに絶景です!!



佐多岬の先端付近で、別府から八幡浜に向かう宇和島運輸の「えひめ」と出会いました。



佐賀関に入港直前に僚船「遊なぎ」と反航しました。



佐賀関港に着岸する「涼かぜ」です。



佐賀関港に停泊する僚船「速なみ」。この日はドックインのために係船されていました。



佐賀関では出港する「涼かぜ」を見送りました。



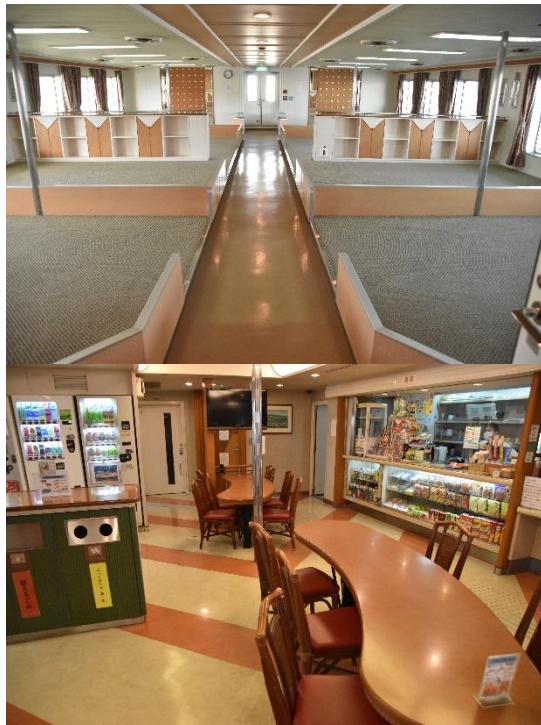
佐賀関港に入港する「遊なぎ」の姿です。



臼杵造船で艤装中の九州郵船の「うみてらし」の姿です。博多～対馬航路に就航します。



翌朝、臼杵から宇和島運輸の「おおいた」に乗船しました。



「おおいた」の船内旅客スペースです。



九四オレンジフェリーの「おれんじ四国」と反航しました。佐多岬の尾根には風力発電の風車が林立していました。



僚船「あけぼの丸」は右舷側を通ったため逆光でした。



八幡浜に入港する直前に「えひめ」と反航しました。



八幡浜港では、新しい桟橋が建設中でした。



宇和島港から 13 時 10 分発の在来船「しらさぎ」に乗船しました。運航する盛運汽船は、同船と、高速旅客船 2 隻で宇和海に浮かぶ諸島および半島の各港を結んでいます。



船尾に貨物積載スペースとクレーンがあります。



宇和島港を出港すると、高速船「あさかぜ」と反航しました。



続いて高速船「しおかぜ」と反航しました。



「しおかぜ」は約 4 時間半をかけて宇和海を回ります。



日振島の能登で下船して、船を乗り換えました。そうしないと「しらさぎ」の走行中の姿が見られないためです。



能登を出港する「しらさぎ」の姿です。



30分ほど待つと、高速船「しおかぜ」が入港してきました。この日、最後の宇和島行の便です。



「しおかぜ」の船内です。今はなき「三保造船」(大阪)の銘板がありました。



宇和島港の一画に「六連丸」がつながっていました。



宇和島水産高校の漁業練習船「うわじま丸」の姿もありました。先代ではハワイ沖で浮上する米潜水艦に衝突され沈没した痛ましい海難がありました。



最終日の朝には、宿毛港まで足を延ばし、市営船「すくも」の入港を見ることができました。